

尚々当地

□ 節様大和様へも
(羽力)

島之義申上候

御同名九右衛門殿へ

別紙三可進候へ共

御手前様より右之通

御心得頼申候、以上

貴札致拝見候

先以其地御無事

御座候而大慶ニ

奉存候、此地も

別条無之候

罷越候処ニ種々御懇意殊ニ再三

御振舞可被成候旨

毎度之御心入

不淺忝存候、御内

山下ニも御理り申何も様ニも伺公不申候ニ付御残多帰宅仕候、隨而松嶋ニ七八拾石之小舟遣鉄砲三而

ミち打申候ハ、

小嶋之事ニ候間竹
嶋江ミちにけさり
嶋江ミちにけさり

竹嶋之納所大分

候ハんと市兵へ望

迎彦左衛門てつたひ

申上者市兵心次

第と存、以来之

心見さもあるへき

事かと存、江戸

安部四郎五郎様へ御内證

申上ル飛脚進上申候

調可申も不存候、猶

追而可得其意候

恐惶謹言 石井宗悦

常(花押)

極月五日

道喜様 御報